

# うっしっしいー情報2018

11月市



豊岡農業改良普及センター

11月14日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が123万1千円、雌が106万2千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	7	0.935	1,058,709	4	0.813	950,940	11	1,019,520
篠山	3	0.933	1,262,160	2	0.869	925,020	5	1,127,304
丹波	19	0.948	1,294,238	11	0.818	969,251	30	1,175,076
朝来	9	0.981	1,261,080	3	0.730	999,000	12	1,195,560
播磨	20	0.954	1,255,122	20	0.826	1,009,260	40	1,132,191
美方郡	82	0.957	1,198,365	48	0.854	1,138,028	130	1,176,087
豊岡	24	0.963	1,264,230	12	0.823	1,048,500	36	1,192,320
養父	28	0.967	1,307,263	9	0.904	1,117,920	37	1,261,206
摂津・神戸	6	0.904	1,119,420	5	0.779	1,004,832	11	1,067,335
県北C	3	0.819	1,065,600	5	0.738	914,760	8	971,325
市場全体	201	0.954	1,230,668	119	0.834	1,061,885	320	1,167,902

# 11月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	44	1.003	1,287,139	20	0.845	1,142,154	64	1,241,831
2	丸池土井	20	0.933	1,267,110	7	0.803	1,072,286	27	1,216,600
3	丸宮土井	32	0.947	1,296,338	19	0.831	1,050,328	51	1,204,687
	総計	201	0.954	1,230,668	119	0.834	1,061,885	320	1,167,902
4	千代藤土井	13	0.953	1,235,105	5	0.837	971,568	18	1,161,900
5	照忠土井	34	0.942	1,224,307	28	0.852	1,073,713	62	1,156,297
6	芳山土井	20	0.981	1,166,184	12	0.821	1,089,180	32	1,137,308

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A	A	A → B	B	B	A++
2	丸池土井	B → C	A+	B → C	B → C	A+	A+++ → A++
3	丸宮土井	C	B	A+	A++	A+	A++
4	千代藤土井	A	A+++	D	A	A++	A++
5	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
6	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成30年7月現在)

# 2産目まで育成牛ですよ！

～2産までの母牛の飼養管理について～

## 1. はじめに

初産はすんなり種が付いたのに、その後の種付けがイマイチ…いつもどおり産前産後の増飼いしているはずなのに…をという話をよく現場で耳にします。1回分娩すれば繁殖母牛なのですが、まだまだ成長途中にある育成牛でもあるのです。そこで今回は、繁殖牛として長期的連産性を確保するために、ホントの意味で成牛となる2産までの飼養管理について考えてみたいと思います。

## 2. 初回種付けから成牛になるまでの発育量

初回種付けから2産分娩までの生産サイクルと雌牛の発育量について見てみましょう。ここでは、初回種付けを14ヶ月齢、初産分娩月齢を23ヶ月齢とし、2産目の分娩月齢を1年後の35ヶ月齢としています。なお、ここで示す雌牛の発育値は、黒毛和種の平均発育値（全国和牛登録協会）とします。

初回AI※から初産分娩までのI期では、妊娠期間における体重および体高の増加量は、それぞれ78.1kg、6.8cm、期間DGは約0.3kg/日となり、子牛ほどではありませんが確実に増体していることがわかります。

初産分娩から2産分娩までのII期では、I期ほどではありませんが、体重および体高の増加量は、それぞれ21.6kg、体高2.4cmとなり、期間DGは0.07kgと緩慢になりますが、成長が止まったわけではありません。

2産分娩後のIII期になると、体重および体高の増加量は、ほぼ個体差程度の3.0kg、0.5cmとなりほとんど成長しなくなることがわかります（図1）。

※AI = Artificial Insemination（人工授精）

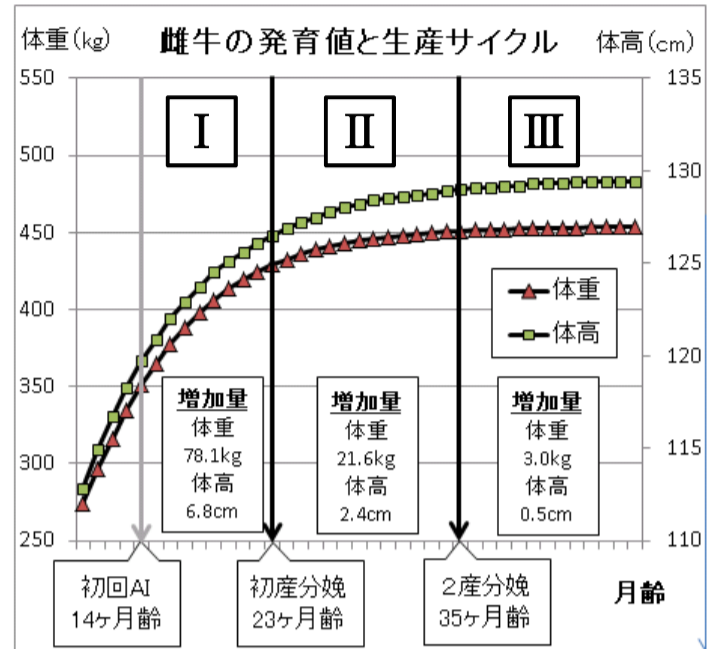


図1 雌牛の発育値と生産サイクル

## 3 新米ママ（初妊・初産牛）は大忙し！

妊娠末期から分娩後にかけての周産期では、自らの体の維持に加え、子牛生産にかかる養分（胎子の発育に要する養分・授乳に要する養分）が必要となります。2産目以降の成牛と違い、増体するため、成長に要する養分も必要なり、ベテランママ（成牛）よりも、新米ママ（初妊・初産牛）は大忙しです（図2）。このため、初産分娩前後では、成牛と同じ増飼期・授乳期における増給量だけでは、成長に要する養分を含めた初産牛に必要な養分をまかなうことができません。

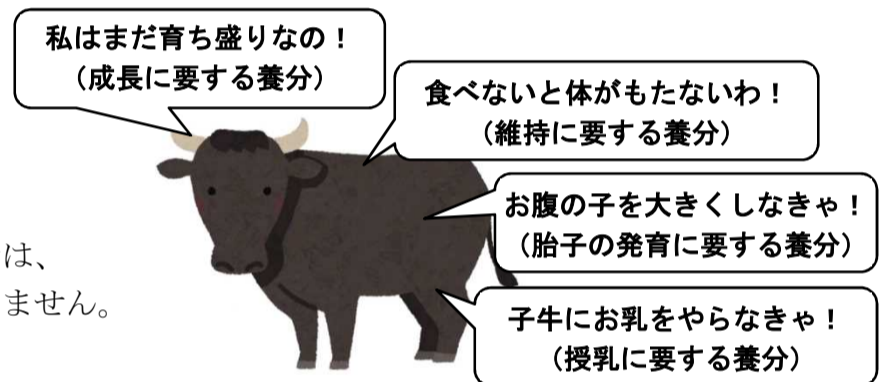


図2 大忙しの新米ママ

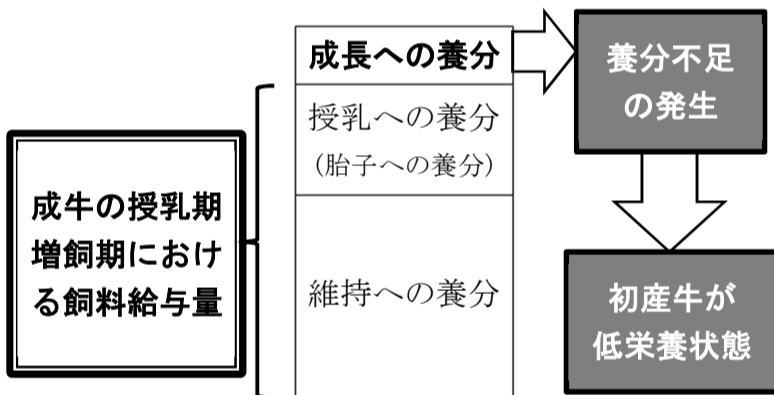
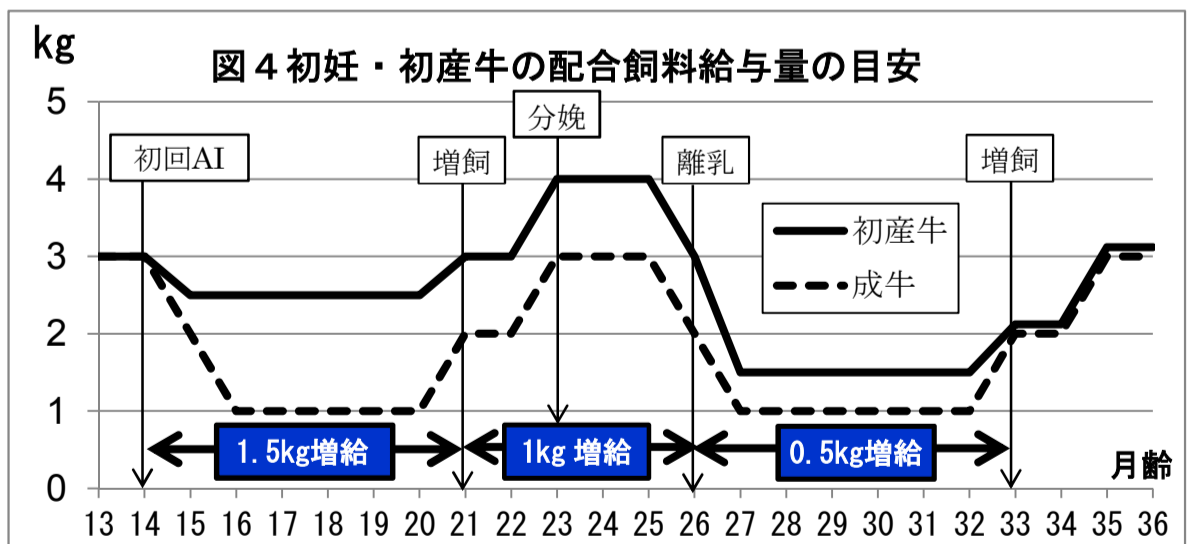


図3 初産分娩前後の養分要求イメージ

このため、増飼期や授乳期において、全体として必要養分量が充足されず、初妊・初産牛が低栄養状態になります（図3）。低栄養状態になることで、次の繁殖に向けたホルモン分泌機能や卵巣機能が低下し、鈍性発情や受胎率の低下を引き起こします。このような原因から、初産の種付けがうまくいったのに…2産目に向けた種付けがうまくいかない事例が散見されるわけです。

## 4. 初妊・初産牛の飼養管理ポイント

それでは、初妊・初産牛において、成牛と比べてのくらい配合飼料を増給すれば良いのでしょうか。その目安としては、初回AIから初産に向けた増飼までは、1.5kg程度の増給、初産分娩後の離乳時までは1kgの増給、2産に向けた増飼までは0.5kgの増給が目安となります（図4）。また初妊・初産牛の栄養管理では、配合飼料の増給だけでなく、粗飼料についても良質な乾草を十分に給与することが重要になります。



## 5. まとめ

今回の情報では、初妊・初産牛の飼養管理についてお伝えしました。2産を終えるまでは、子牛生産を行う繁殖牛と、成長を続ける育成牛の両面を持っており、2産までの飼養管理をいかに行うかで繁殖牛としての運命が決まります。このことを考慮しながら、長期的に連産が可能な繁殖用後継牛となるよう牛づくりに努めましょう。

### Point

- 2産を終えるまでは成長が続くため、初妊・初産牛は子牛生産を行う繁殖牛と成長する育成牛の両面を持つ
- 成牛と同じ飼養管理を行うと、初妊・初産牛は低栄養状態となり2産目に向けた繁殖成績が低下する
- 初回AIから初産に向けた増飼までは1.5kg、初産分娩後の離乳までは1.0kg、2産に向けた増飼までは0.5kg配合飼料を増給する